

損益状況<連結>

(単位：億円)

	26年3月期	前期比	25年3月期
	経常収益	1,909	△ 81
連結粗利益	1,510	△ 107	1,618
資金利益	1,213	△ 26	1,240
役務取引等利益	227	△ 7	235
特定取引利益	5	+ 2	3
その他業務利益	63	△ 76	139
営業経費	1,052	△ 9	1,061
不良債権処理額	△ 14	△ 200	186
株式等損益	5	+ 92	△ 86
経常利益	494	+ 201	293
当期純利益	273	+ 92	181
自己資本比率*	12.31%		11.88%

※26年3月期はバーゼルⅢベース、25年3月期はバーゼルⅡベースで算出しています。

26年3月期の連結業績につきましては、経常収益は前期比81億円減少の1,909億円となりました。

連結粗利益は、貸出金利息の減少による資金利益の減少や保険販売手数料の減少による役務取引等利益の減少、国債等債券損益の減少によるその他業務利益の減少などを要因に前期比107億円減少の1,510億円となりました。

経常利益は、不良債権処理額の減少と株式等損益の改善により、前期比201億円増加の494億円となりました。

当期純利益は、特別損失と法人税等が増加しましたが、前期比92億円増加の273億円となりました。

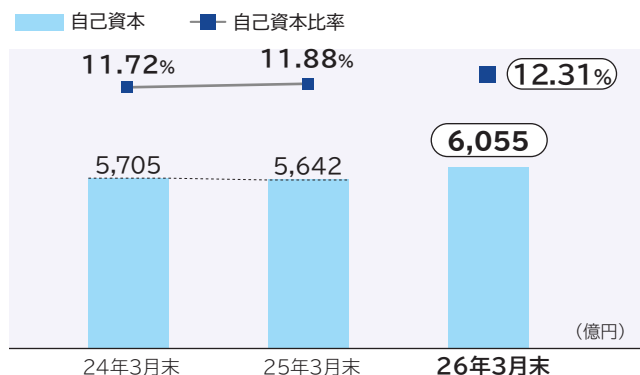
自己資本比率は、12.31%となりました。

普通株式の期末配当につきましては、昨年より1株当たり25銭増配の4円、優先株式は所定の配当としました。

自己資本比率<連結>

財務の健全性を示す自己資本比率は、12.31%となりました。

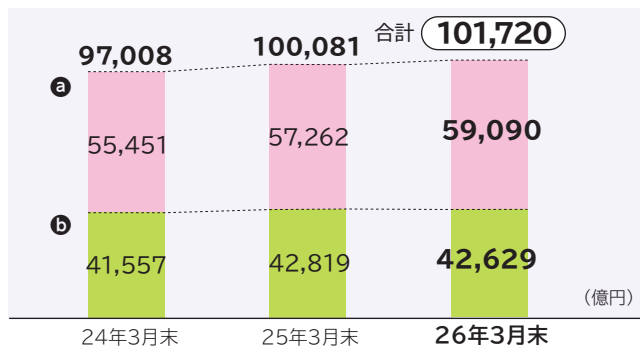
※26年3月末はバーゼルⅢベース、25年3月末以前はバーゼルⅡベースで算出しています。



預金 (含む譲渡性預金) <2行合算>

預金は、個人のお客さまを中心に増加したことにより、25年3月末比1,638億円増加の10兆1,720億円となりました。

■ a 北陸銀行 ■ b 北海道銀行

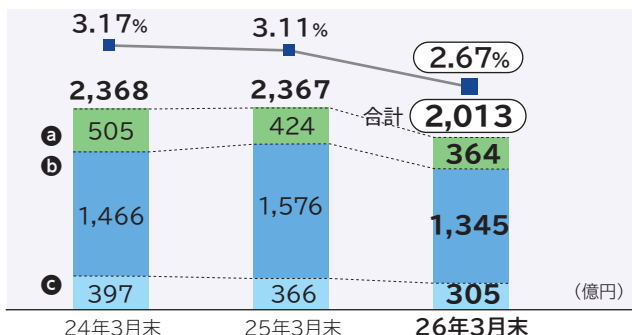


金融再生法開示債権<2行合算>

金融再生法開示債権は、25年3月末比353億円減少の2,013億円となりました。

開示債権比率は同0.44ポイント低下の2.67%となりました。

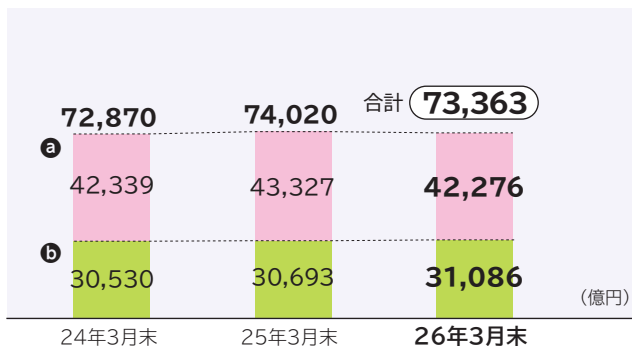
■ a 要管理債権 ■ b 危険債権
■ c 破産更生債権及びこれらに準ずる債権 ■ 開示債権比率



貸出金<2行合算>

貸出金は、住宅系ローンで増加したものの事業性貸出が減少したため25年3月末比657億円減少の7兆3,363億円となりました。

■ a 北陸銀行 ■ b 北海道銀行



損益状況

(単位:億円)

	26年3月期	前期比	25年3月期
経常収益	977	△ 52	1,030
コア業務粗利益	770	△ 52	823
資金利益	663	△ 36	699
役務取引等利益	91	△ 15	106
特定取引利益	3	+ 1	1
その他業務利益	13	△ 2	15
経費	505	△ 3	509
コア業務純益	264	△ 49	314
業務純益 ※1	278	△ 89	368
与信費用	△ 42	△ 136	93
株式等損益	1	+ 69	△ 67
経常利益	304	+ 120	183
当期純利益	178	+ 55	123
自己資本比率 ※2	12.40%		11.78%

※1 一般貸倒引当金繰入前

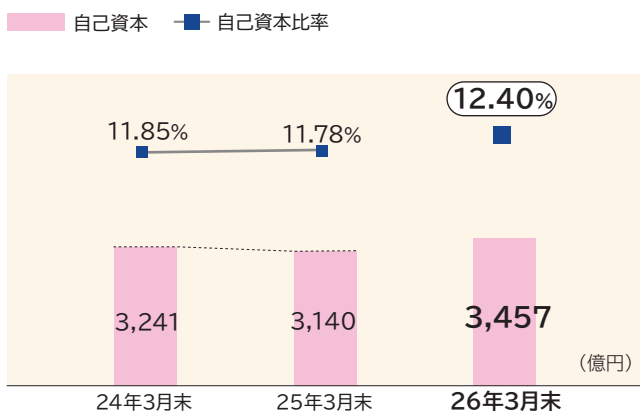
※2 26年3月期はバーゼルⅢベース、25年3月期はバーゼルⅡベースで算出しています。

連結経常収益	980	△ 51	1,031
連結経常利益	304	+ 122	182
連結当期純利益	178	+ 56	121

自己資本比率

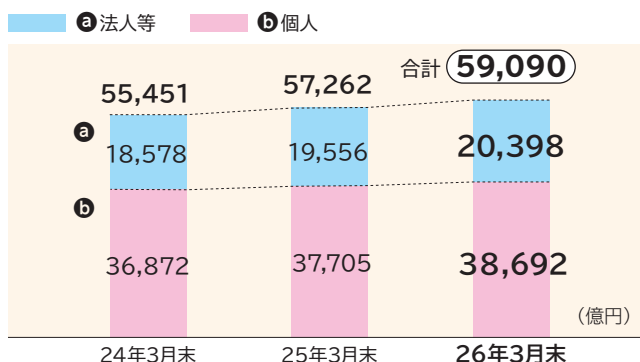
自己資本比率は、12.40%となりました。

※26年3月末はバーゼルⅢベース、25年3月末以前はバーゼルⅡベースで算出しています。



預金 (含む譲渡性預金)

預金は、個人預金を中心として順調に増加し、前期末比1,828億円増加の5兆9,090億円となりました。



コア業務粗利益は、貸出金利息の減少による資金利益の減少と保険販売手数料の減少による役務取引等利益の減少により、前期比52億円減少の770億円となりましたが、コア業務純益は人件費が減少したため、前期比49億円減少の264億円となりました。

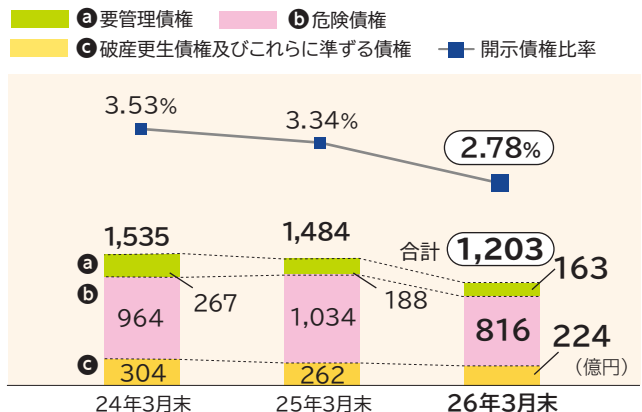
経常利益は、与信費用の減少と株式等損益の改善により前期比120億円増加の304億円となりました。

当期純利益は、固定資産の減損損失や法人税等の増加がありました前期比55億円増加の178億円となりました。

連結経常収益は前期比51億円減少の980億円、連結経常利益は前期比122億円増加の304億円、連結当期純利益は前期比56億円増加の178億円となりました。

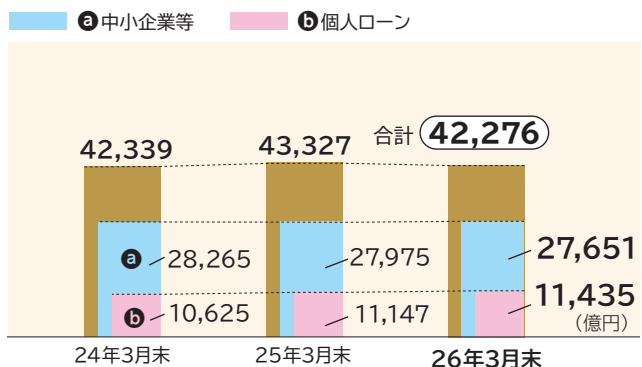
金融再生法開示債権

金融再生法開示債権は、前期末比281億円減少の1,203億円となりました。開示債権比率は、前期末比0.56ポイント低下の2.78%となりました。



貸出金

貸出金は、個人ローンは増加しましたが、資金需要の伸び悩みから中小企業向け貸出が減少し、また、地方公共団体等向け貸出も減少したため前期末比1,050億円減少の4兆2,276億円となりました。



損益状況

(単位: 億円)

	26年3月期	前期比	25年3月期
経常収益	802	△ 14	816
コア業務粗利益	652	+ 20	631
資金利益	554	+ 10	543
役務取引等利益	86	+ 9	77
その他業務利益	11	+ 1	10
経費	434	△ 7	442
コア業務純益	217	+ 28	189
業務純益 ※1	218	△ 6	225
与信費用	28	△ 47	76
株式等損益	5	+ 23	△ 18
経常利益	180	+ 64	116
当期純利益	96	+ 24	72
自己資本比率 ※2	10.76%		11.23%

※1 一般貸倒引当金繰入前

※2 26年3月期はパーゼルⅢベース、25年3月期はパーゼルⅡベースで算出しています。

	26年3月期	前期比	25年3月期
連結経常収益	822	△ 14	836
連結経常利益	192	+ 73	118
連結当期純利益	104	+ 31	72

コア業務粗利益は、有価証券利息の増加等による資金利益の増加と預かり資産販売手数料の増加による役務取引等利益の増加により前期比20億円増加の652億円となりました。コア業務純益は、物件費の圧縮により前期比28億円増加の217億円となりました。

経常利益は、与信費用の減少と株式等損益の改善により、前期比64億円増加の180億円となりました。

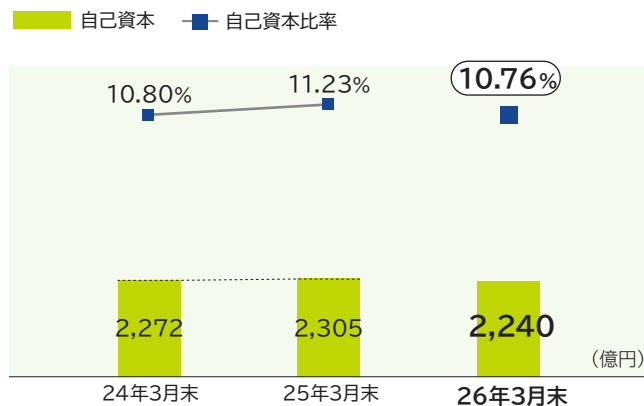
当期純利益は、前期比24億円増加の96億円となりました。

連結経常収益は前期比14億円減少の822億円、連結経常利益は前期比73億円増加の192億円、連結当期純利益は前期比31億円増加の104億円となりました。

自己資本比率

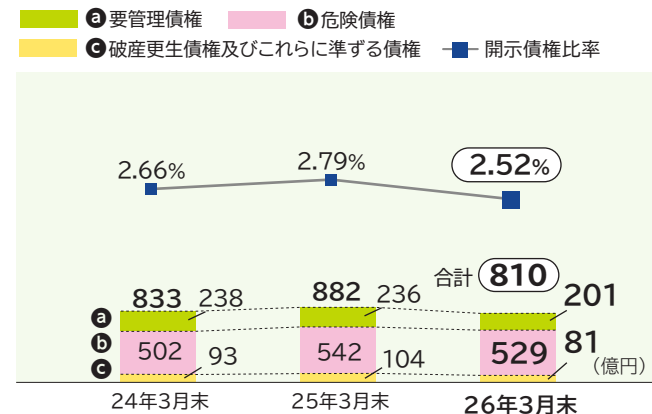
自己資本比率は、10.76%となりました。

※26年3月末はパーゼルⅢベース、25年3月末以前はパーゼルⅡベースで算出しています。



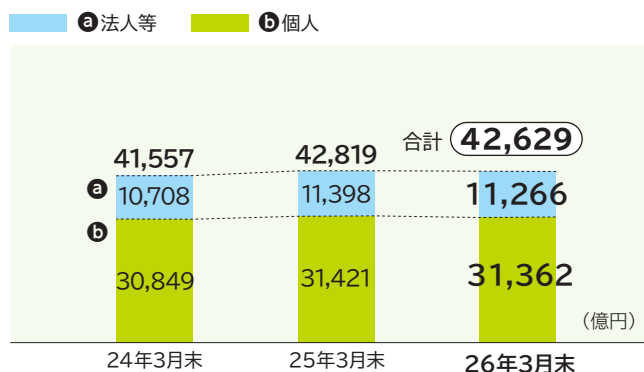
金融再生法開示債権

金融再生法開示債権は、前期末比71億円減少の810億円となりました。開示債権比率は、前期末比0.27ポイント低下の2.52%となりました。



預金 (含む譲渡性預金)

預金は、法人預金等が減少したため、前期末比189億円減少の4兆2,629億円となりました。



貸出金

貸出金は、資金需要の伸び悩みから中小企業貸出は減少しましたが、地方公共団体等向け貸出が増加したため、前期末比393億円増加の3兆1,086億円となりました。

